

ことはないと考えられる。従って、本物質の経口ばく露による健康リスクについては、現時点では作業は必要ないと考えられる。

吸入ばく露については、一般環境大気中の濃度についてみると、予測最大ばく露濃度は 0.30 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度であった。無毒性量等 5.3 mg/m^3 と予測最大ばく露濃度から、動物実験結果より設定された知見であるために 10 で除して求めた MOE は 1,800 となる。また、室内空気中の濃度についてみると、予測最大ばく露濃度は 34 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、予測最大ばく露濃度から求めた MOE は 16 となる。従って、本物質の一般環境大気の吸入ばく露による健康リスクについては、現時点では作業は必要ないと考えられるが、室内空気の吸入ばく露による健康リスクについては、情報収集に努める必要があると考えられる。

有害性の知見				ばく露評価		リスク判定の結果			評価			
ばく露経路	リスク評価の指標		動物	影響評価指標 (エンドポイント)	ばく露の媒体	予測最大ばく露量及び濃度						
経口	無毒性量等	0.69	mg/kg/day	ラット	肝細胞の変性	飲料水	—	$\mu\text{g}/\text{kg}/\text{day}$	MOE	—	×	○
						地下水	< 0.0032	$\mu\text{g}/\text{kg}/\text{day}$	MOE	> 22,000	○	
吸入	無毒性量等	5.3	mg/m ³	マウス	前胃の過形成、潰瘍など	一般環境大気	0.30	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	MOE	1,800	○	○
						室内空気	34	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	MOE	16	▲	

4. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間半数影響濃度 (EC₅₀) 1,000,000 $\mu\text{g}/\text{L}$ 超、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 1,000,000 $\mu\text{g}/\text{L}$ 超、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間半数致死濃度 (LC₅₀) 100,000 $\mu\text{g}/\text{L}$ 超が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 1,000 $\mu\text{g}/\text{L}$ 超が得られた。慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間無影響濃度 (NOEC) 125,000 $\mu\text{g}/\text{L}$ 、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 100,000 $\mu\text{g}/\text{L}$ 以上が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 1,000 $\mu\text{g}/\text{L}$ 以上が得られた。本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 1,000 $\mu\text{g}/\text{L}$ 以上を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域では 0.0007 以下、海水域では 0.00008 未満となるため、現時点では作業は必要ないと考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC ($\mu\text{g}/\text{L}$)	ばく露評価		PEC/PNEC 比	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC ($\mu\text{g}/\text{L}$)		
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	$\geq 1,000$	淡水	0.71	≤ 0.0007	○
					海水	<0.08	<0.00008	

5. 結論

		結論	判定
健康リスク	経口ばく露	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○
	吸入ばく露	一般環境大気の吸入ばく露による健康リスクについては、現時点では作業は必要ないが、室内空気の吸入ばく露による健康リスクについては、情報収集に努める必要があると考えられる。	▲
生態リスク	現時点では作業は必要ないと考えられる。		○

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない
(○)：情報収集を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる

